設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年10月19日
(83号)

中之島ニュース

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

「十周年に向かって　一石を投じます」

顧問　細川三郎

◆「理念と目的　塾是」

一、森信三先生をはじめとした先哲に学ぶ

一、日常生活の細事を軽んぜず徳行に努める

一、心願以て万事の源と為し、世界の手本となる人間塾を創る

◆「考えてみる」

(1) 人間学塾の第6期頃から、寺田一清先生を全く知らない人、いわんや森信三先生は雲の上の人。この現状を手本とする原形を今から考えていく新しい人々がこの塾に何を求めているか、先哲の人々と今の新しい人々の近い合致を探る。

(2) 日常の細事の徳行を発表してもらう。小さな徳の積み重ね毎月の例会で発表者5名お願いをして定着させる。現状ミニ読書会が定着した。

(3) 人が見ているとか見ていないとかでなく、我はすべて天が見ているその為の行いは、先祖に恥じぬ様、父母に恥じぬ様　日頃の行いを実践すること。

◆「人間学塾・中之島」今からの進むべき道

〝至誠(しせい)神の如し〟と、諺にあります。生きていても死んでいるような人がいる。周囲の人や社会人の配慮が出来ず、人の役に立たないで自分だけの幸せを願って生きている人。肉体の命はあっても、心の命を失っている。その反面、死んでいても生きている人がいる。亡くなった後も多くの人々にその死を惜しまれて、生前の善行が奇特(きくとく)として今でも広く伝わっていく人。

さて、私達が学んでいるこの塾は森信三先生没後27年経ってでも、その哲学を主として寺田一清先生が教えて下さいました。この塾は最も大きな師を失いました。

今後の道しるべについて皆さんと考えてみたいと存じます。今から必要になってくること、現在の視野を広く広く、もっと広く持つ。また、人間学塾の塾生である認識を強く持ち、更にその前に日本国民の三大義務、①教育の義務 ②勤労の義務③納税の義務。この義務を全うしながら次の段階を考えてみましょう。

早急なこと。革新と自立、新しい考え方ややり方を取り入れていく。そして社会が認めて下さる。要するに市民権を得ることです。方法として、この塾の20年の歴史と何千人がこの塾から輩出し社会貢献されている先輩方の現実を広く町の教育委員会、勉強会団体等に知って頂く。

そして当塾がすべての活動について、教育委員会と共催の出来る塾に育てていく。その為には現在の組織を新しくする必要があります。

①改革し、②自立、自己で大地に立つ勇気が必要となります。今の組織を個人代表ではなく、歴史は20年あります。勇気を出して、一般社団法人・人間学塾中之島と改名し、役所、教育委員会、諸団体各種、勉強会団体等PR、勉強会開催等は共催の応援を頂く。今の講師の方、過去の講師の方、一覧表を作り塾のPRをする。この様な地道な活動を継続し続けて、社会が認める勉強会は、東の致知出版社、西の人間学塾としたいものです。

ここで、次の準備に何をすべきか。塾生が何を求めているのか。世話役の人々がどの方向で指導するのか。最も大事な10年を迎えることになって参ります。10年続ければ偉大なり、20年続ければ畏るべし、30年続ければ歴史に残る、50年続ければ神の如しと、この塾で教えて頂きました。

10年を迎えようとしているこの時、50年先を考えて時代の変化を読みながら、改革する時は必ず何かのリスクを負う。それを突破した人のみ、与えられる満足感、幸せ感が得られると信じます。

入　塾　式

ここ
学びの非日常空間には…
いっぱい学びがあります!!

気づき　ご縁　本学
生き方　感謝　笑顔

歓迎の集い

於 佐治敬三ホール

私の『入塾動機・テーマ』

「Aグループ」

明石恒重

陶潜の詩勧学に、盛年重ねて来たらず、一日再び晨（あした）なり難し。時に及んで当（まさ）に勉励すべし、歳月は人を待たず。私がこの詩を胸に米寿の余生を、人間学塾のみなさまと友に燃焼します。

池永辰朗

「たとえ果は約束されていなくても、それが良いことであるなら信念を持って続けていく」この言葉が心の支えとなりました。5年目は、社会のどこにあっても、〃一所懸命〃。

井上貴子

二年前より『古事記』を学ぶ中で、今まで心の奥底に眠っていたものが思い起こされ、日本人としての在り方をもっと考えていきたいと思い入塾させて頂きました。

岩崎二三子

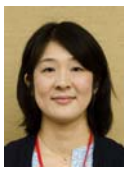
二期目になります。学びの期会は二度とないかも知れない尊いものとの認識を強め、この一年通います。宜しくお願いします。午前からの参加を目標にします。

大西由香

今期は学んだことを必ず他の人にお伝えして、共に成長・前進。そして自分の中に落とし込んでいきたいと思います。

角高憲治

島崎藤村の「人に三智あり」を知りました。「学んで得る智」「人と交わって得る智」「自らの体験によって得る智」です。これは正に人間学塾であると思い、学びを継続致します。



北嶋紀子

昨年にひき続き、〃人格の統治〃新たな視点を身につけて日々の生活で表現できることを増やして生きた。

幸福とは求めるものでなくて、与えられるもの。自己の為すべきことをした人に対し、天からこの世において与えられるものである。

森　信三先生

楠生　聡

大慈悲の心

小南昭雄

入塾して早五年、八期で六年目。最低十年は継続すると心に決めています。七期は私にとって記憶に残る期に、八期はどんな学びが待っているのかワクワク・ドキドキです。

つみかさね

一球一球のつみかさね
一打一打のつみかさね
一歩一歩のつみかさね
一坐一坐のつみかさね
一作一作のつみかさね
一念一年のつみかさね
つみかさねの上に　咲く花
つみかさねの果てに　熟する実
それは美しく尊く真の　光を放つ

坂村真民

重藤悦男

「今ここに生きる感動を継いで繁いで宇宙創造」の人生主題歌にプラスして「今ここ」の次に「人間（じんかん）」を入れて日常のワクワク実践をやっていきます。

志村隆夫

良い環境で、素直な塾生の方々と共に、素晴らしい講師の方々に恵まれて、勉強できることに、心から感激致します。

塾生として学び続けること、学ぶ場所があること、共に学ぶ仲間がいることは、幸せ感幸福感が湧いてくるように思います。八期もしっかりと学び日々の生活の中で実践していきます。

田中喜一朗

第八期も宜しくお願い致します。少しずつですが学びを重ね、素晴らしいご縁を戴き自分の成長に繋げたいと思っております。感謝の心を忘れずに一年間学びます。

中尾文彦

三期目の決意　その一、学びを丁寧に記録し、より実践に役立てる。それを人に伝える。その二、立腰を意識し、ぶれない生き方をする。

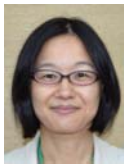
中村美智留

人生を楽しむ

「仲間との和同」

西川由美子

一切の悩みは比較より生じる。
人は比較を絶した世界へ躍入するとき、始めて真に卓立し、所謂
「天上点が唯我独尊」の境に立つ。
森　信三先生



今期は、毎日の学びを聴くだけにせず、整理して「友人に話す」「ブログなどに文章で発信する」を必達目標に、ご縁を大切にした活動も始めたいと思います。

野依佐千子

森　信三先生をしっかり学びたいと頑張っている自分と、すぐに崩れそうになるもうひとりの自分。まだまだ成長しない自分を戒めながら今期も励みたいと思います。

橋本美津枝

即今着手

三浦しげみ

私は、会計業界に入って32年になります。毎日、お金のことで顧問先様と話をしていますが、最近、お金と同様、大切なのは心の持ち方だと思うようになりました。入塾して人

三原秀章

今までのご縁で学び頂いたものをお返しして、私から発信し、少しでも人様のお役に立てるよう、さらに学んでゆく一年でありたいと思っております。お願い致します。

山田　司

還暦を迎えて第二の人生の出発にさいして志を高く持っておられる方からの学びを通して、知らないことを知って楽しい充実した感動的な毎日を過ごしたいと願っています。

矢口弘子

第八期のテーマは、森信三先生の言葉である「退職後の生き方として在職中の三倍ないし五倍の緊張を持って人生いかに取り組むか」その探求と実践をする。

横井　康

継続は力なり。
新たなるご縁を求めて。

吉田臣造

覚悟がすべて、成熟がすべて。

渡辺真知子

「Bグループ」

浅野　豊

三年目になります。
共に学ばせて頂くことに感謝。

石黒　尚

この一年間は、学ぶだけでなく学んだことを日常生活の中で生かすことを特に努めたいです。毎月皆さまとお会いできるのをお楽しみにしています。

今井亜紀

私が入塾した動機は、尊敬する中川先生が副代表を務めておられることです。私にとって様々な扉を開いてくれた伝道師のような存在です。様々な方々と交流して学びを深めていきたいと思います。

大槻千佳子

若い頃に両親を亡くし、今年主人を見送り私の人生死と向き合い様々な想いで生きて、人生の旅の半ばになり、これからの旅を先人の方々の生き方人間力から学ばせて頂きたい。

小澤　聡

第七期より入塾し「凡事徹底」という素晴らしい教えを学び、感動しました。今期はその感動を振り返り「志は高く、実践は足下から」出直したいと思います。

川又タカ子

名も高き水の都の…と口ずさんでいるふとした日常に、多くの方の出会いと、素晴らしい講師の先生方の学びから、また一歩進ませて頂こう。そんな勇気を戴きました。深縁感謝

立腰とは、すなわち二六時中、その腰骨を立て通すことである。この立腰こそ人間の主体を立てる極秘伝である。

森　信三先生

清林由佳

自分の使命だと感じることを、楽しく一所懸命実践して、人の役にも立つようにする。

小寺啓之

辞める理由もなく、今期も「教養・教育」で非日常空間を楽しみたいと思います。
森信三・寺田一清両先生の跡を求めず、師の求めるところを求めて。
大宇宙・大和楽

佐川博敏

読書量を今の二倍に‼恥ずかしながら月に数冊も読めてないのが実情です。ビジネス書は別にして、この三年間人間学塾で紹介された講師の先生方の本が、積読状態。

柴原啓司

天と人間を結ぶ伝道師となる。そのために日常の些事と祈りをおろそかにせず、素直さと感謝の心を忘れない。今期も宜しくお願い申し上げます。

身近な人のご恩が
わからなければ、
真の幸せには
めぐりあえない。

東井義雄先生

整理整頓は、仕事の能率・効率を高め、清掃清潔は、仕事の質をよくする。

鍵山秀三郎先生

嶋田　泉

仕事やプライベートでの種々の課題について、この「第三の場」をお借りして、心の洗濯や考えの振り返りをさせて頂きたいと思います。

田中檀子

第七期卒塾記念品クリヤーファイルの森 信三先生の揮毫は、〝学び続けるように〟と、天上の声として、聴こえてきました。

土屋　章

一、志を立てること（立志・天命）
二、塾を通して書物を読むこと（読書）
三、塾の諸先輩方に教わり人間力を高めること（択友）
打ち叩かれてもしぶとく振舞い、

中村隆行

今年も一年、生き方を学んでまいります。皆さん宜しくお願いします。

西尾千恵子

一，心コロコロするのに心棒を立て志にする。
二，良いことに目を向けて前向きに進む。
三，生かされて生きる恩や良き情報を伝え続ける。

西田京子

掃除・読書・はがき、森信三師の世界は広くて深いです。
今は、はがきに夢中の私、もう少し色々な世界を見てみたい。

広中輝子

素晴らしい先生方のお話を伺うと共に、学び生活に実践できる自分でありたいと思います。出会いを大切に一歩一歩前進していきたいと思います。

町田豊彦

自分にとってどれだけ得にならないことにどれだけ時間と力を使えるか、そうでなければ人間性は高まらない。鍵山秀三郎相談役の言葉です。課題として取り組んでいきます。

松田泰英

今期が三期目となりますが、私の人生にとって大変勉強になりました。今期も皆さんと一緒に色々な角度から、小さなことを発見し、学ばせていただきたいと思います。

宮本しん子

「人となる道を学ぶ」ため。

吉野秀則

「信念」「自信」「希望」を持って、自分らしく大きく生きる。

井阪美智

本田　実

下　正晴

萩　利夫

津組義宏

光田誠次

山崎千晶

たらちねの親のみいのち我が内に
生きますと思う畏きろかも

森　信三先生

《お薦め書籍》

『善の研究』

西田幾多郎 著

出版　岩波文庫
定価　九九〇円（税込み）
ISBN-10: 4003312414

真の実在とは何か、善とは何か、いかに生きるべきか、真の宗教心とは・・・。主観と客観が分かたれる前の「純粋経験」を手がかりに、人間存在に関する根本の問いを考え抜いた西田幾多郎（１８７０－１９４５）。東洋の伝統を踏まえ、西洋的思考の枠組そのものを問題にした本書は、百年後の今日まで日本の哲学の座標軸であり続ける。

《先師の學び》

「真の誠」

真の「誠」は、何よりもまず己のつとめに打ち込むところから始まると言ってよいでしょう。すなわち誠に至る出発点は、何よりもまず自分の仕事に打ち込むということでしょう。

総じて自己の務めに対して、自己の一切を傾け尽くしてこれに当たる。すなわち、もうこれ以上は尽くしようがないというところを、なおもそれに不足を覚えて、さらに一段と自己を投げ出していく。これが真の誠への歩みというものです。

森信三『運命を創る一〇〇の金言』より

《人間学塾・中之島》

■11月　カリキュラム（宿泊研修）

＊日時　11月9日～10日（第2土～日）
午後12時00分～　受付

＊場所　公益財団法人伊勢修養団研修センター
三重県伊勢市宇治今在家町一五三

＊受付　午後0時00分～

＊開講　午後1時～

一日目　神職　内山　陽 氏

「御代替わりの年に考える皇室と神宮」

1978年生　神奈川県出身
2001年　國學院大學文学部神道学科卒
同年　神宮へ奉職　出仕を拝命
2010年　神宮宮掌（じんぐうくじょう）を拝命

講話　中山　緑 氏

（元道場長故中山靖雄氏夫人）

二日目　武田数宏 氏

「あたりまえにありがとう」

1958年福島県安達郡に生まれる。1980年淑徳大学・社会福祉学部／社会福祉学科卒業。同年、財団法人修養団に勤務。1981年（財）修養団伊勢青少年研修センターにおいて、各講習会・研修会に従事。公益財団法人修養団常務理事、伊勢青少年研修センター所長、関西会館館長、講師。著書『伊勢の杜にようこそ』

・童心行
・禊ぎ（水行）　・読書会
・交流会（小宴）
・神宮特別参拝（内宮御垣内）

※別紙案内を参照ください

《淀川掃除に学ぶ会》

短信　志村隆夫

10月6日(日)朝は心配していた雨も降らず 先月に比べてかなり涼しくなりました。参加人員は25人 ゴミの袋は16袋でした。

以前の場所に比べかなり綺麗でゴミの量も少ないです。

8時から9時30分まで掃除して、あとは生駒のスマイルホームの松山社長さんからの差入れのお握り、味噌汁、コーヒーをいただきました。

また、よしやさんの社長さんからお茶、お水の差し入れがあり、お土産のお菓子の箱5ケースをジャンケン大会でいただきました。

以前に比べ、涼しくなって、楽しいゴミ拾いでした。